



SOMPO  
ホールディングス

---

# 2014年度第3四半期決算説明資料

2015年2月13日

損保ジャパン日本興亜ホールディングス株式会社

- 連結経常利益は1,585億円(対前年同期比+62%)と大幅増益
- 連結当期純利益は433億円、通期業績予想に対する進捗率は96%

※業績予想の修正はなし

## 国内損保

- 国内損保のコア保険引受利益は対前年同期比397億円改善
- 自動車保険は引き続き収支改善、コンバインド・レシオは約2ポイント低下し94.5%
- 合併は順調に進展、一時コスト768億円を特損計上済み(通期計画値:800億円)

## 国内生保

- 国内生保は保有拡大、3Qの当期純利益は119億円
- 主力の医療保険は新商品効果で販売好調

## 海外

- 海外はトップラインが順調に拡大、ボトムラインは3Q段階で通期計画値をほぼ達成

## ERM 資本政策

- 内部ソルベンシー比率は引き続きターゲット資本水準(120~170%)の範囲内
- 政策株式のエクスポージャー削減額は722億円と着実に進捗

# 1. 業績動向

P. 2

## 2. 国内損保事業

P. 10

## 3. 国内生保事業

P. 23

## 4. 海外保険事業

P. 27

## 5. ERM・資本政策

P. 31

## 参考資料

P. 41

## 2014年度第3四半期決算概況(連結)

- ◆ 正味収入保険料は順調に拡大、経常利益は大幅増益
- ◆ 特別損失計上した合併一時コストは768億円、当期純利益は433億円と96%の進捗率

(単位:億円)	2013年度 第3四半期	2014年度 第3四半期	増減	(2014年11月19日公表) 2014年度 通期業績予想
経常収益(連結)	22,138	24,217	+2,078 (+9.4%)	-
正味収入保険料	16,837	18,681	+1,843 (+11.0%)	25,050
生命保険料	2,008	2,020	+11 (+0.6%)	2,795
経常利益(連結)	976	1,585	+608	1,720
損保ジャパン日本興亜 <sup>※1</sup>	872	1,429	+556	1,626
ひまわり生命	95	186	+91	178
海外グループ会社	93	151	+57	192
その他・連結調整 <sup>※2</sup>	△85	△182	△97	△277
当期純利益(連結)	473	433	△40	450
損保ジャパン日本興亜 <sup>※1</sup>	404	328	△75	428
ひまわり生命	58	119	+60	110
海外グループ会社	73	136	+62	146
その他・連結調整 <sup>※2</sup>	△63	△151	△87	△235

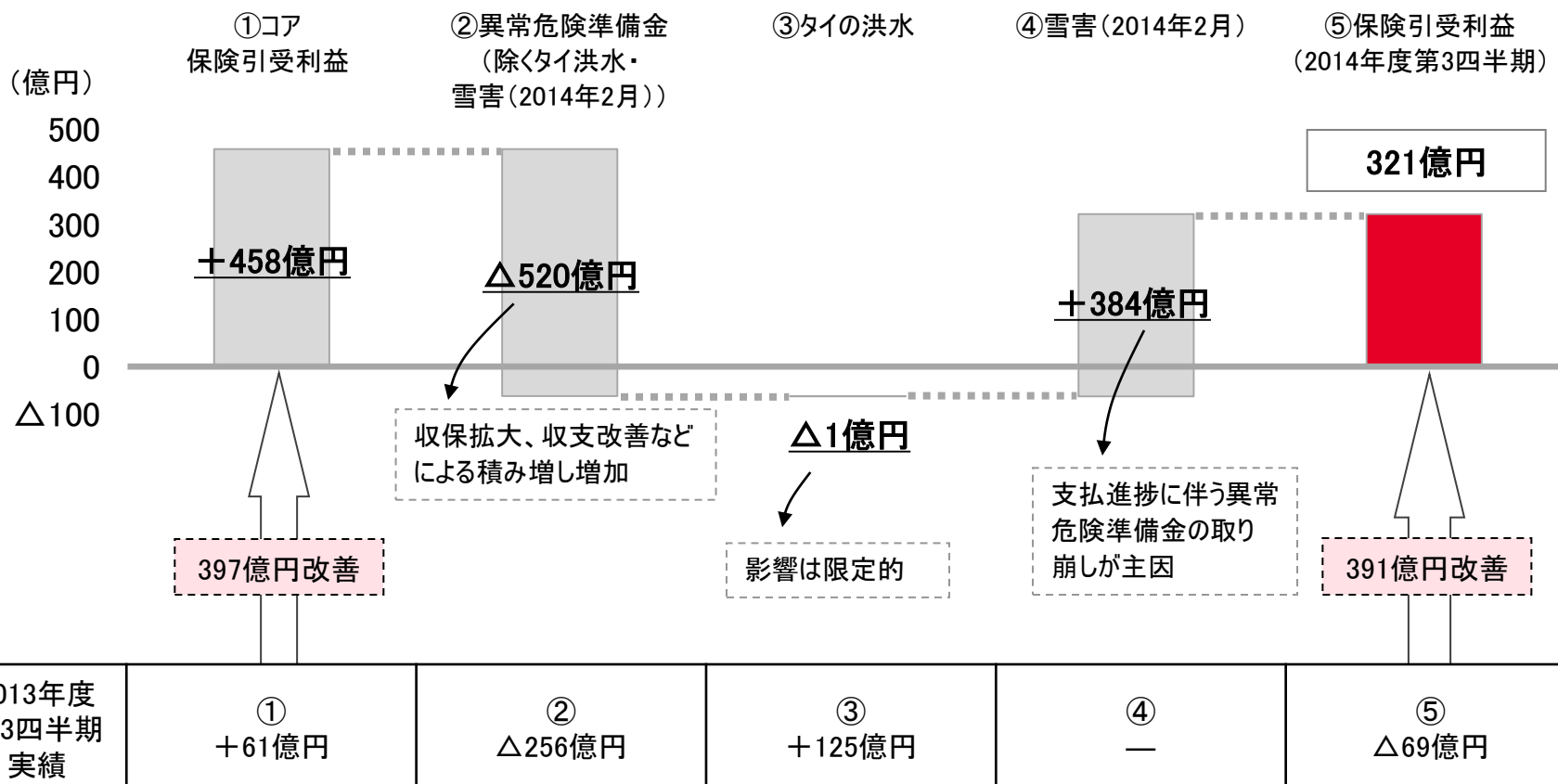
※1 2013年度第3四半期は旧損保ジャパンと旧日本興亜損保の合算値

※2 損保ジャパン日本興亜ホールディングス(旧NKJSホールディングス)の設立にあたり、企業結合の会計処理として「パーチェス法」を適用している。HD連結では、旧日本興亜損保等の資産・負債を経営統合時の時価で取得し、これを簿価としている(旧日本興亜損保等の連結上の認識簿価とHD連結上の認識簿価が相違)。したがって、損保ジャパン日本興亜の売却損益等を修正する必要がある、この修正を上記「連結調整」に含めている(旧損保ジャパンと旧日本興亜損保は合併時に簿価通算している)。

# 第3四半期決算のポイント①: 損保ジャパン日本興亜の保険引受利益

◆ 自動車保険の収支改善を主因に、コア保険引受利益※は大幅に改善

## 保険引受利益(損保ジャパン日本興亜)のブレイクダウン

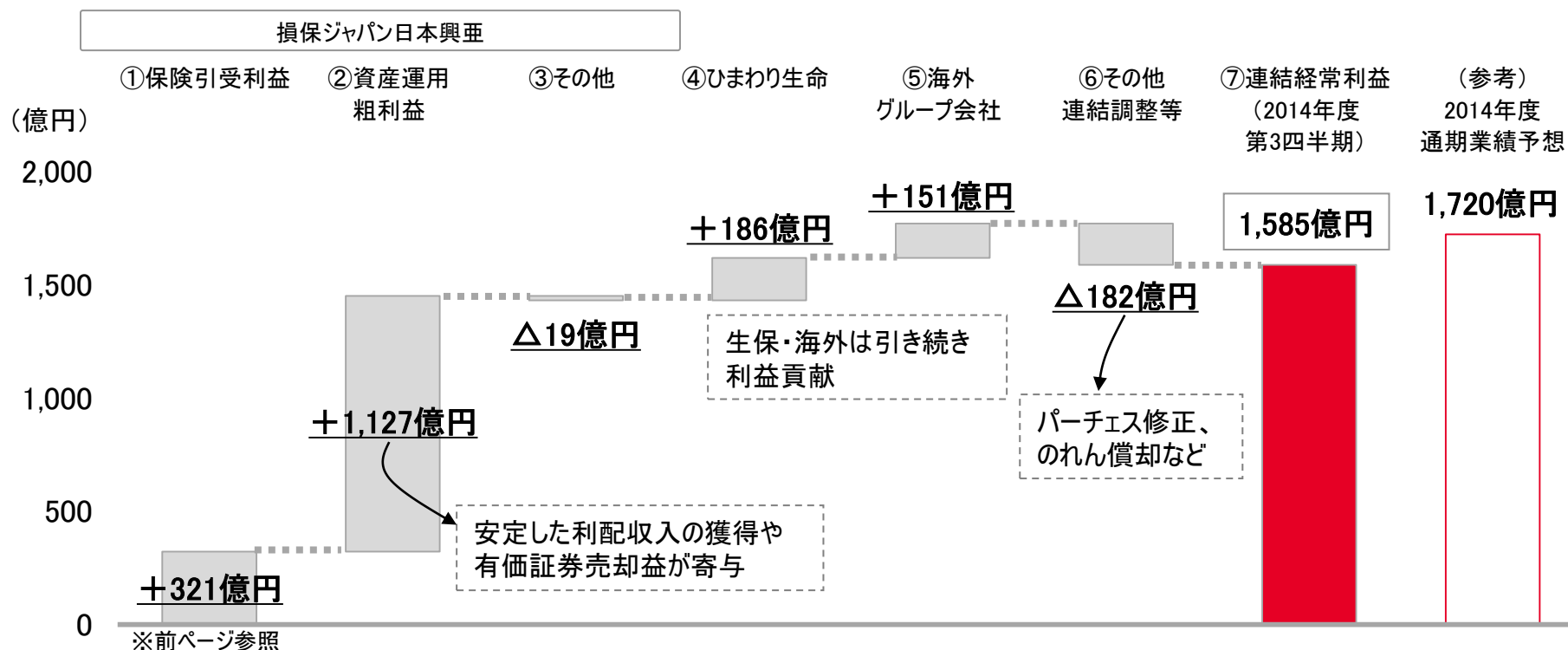


※ コア保険引受利益は、保険引受利益から異常危険準備金、タイの洪水および雪害(2014年2月)に係る影響を除いたもの

## 第3四半期決算のポイント②: 連結経常利益

◆ 国内損保の保険引受利益が大きく改善、生保・海外ともに増益、資産運用環境も良好

### 連結経常利益のブレイクダウン



2013年度  
第3四半期  
実績

①  
△69億円

②  
+1,063億円

③  
△121億円

④  
+95億円

⑤  
+93億円

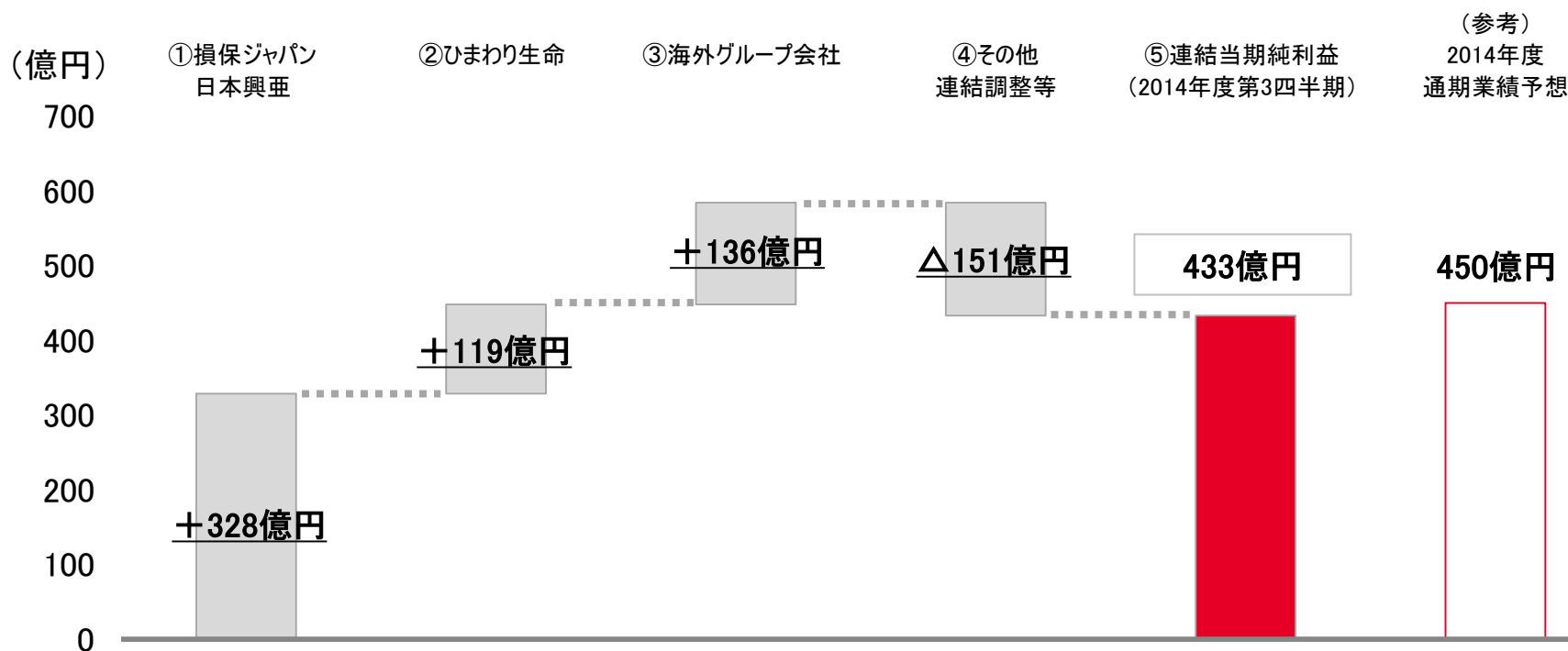
⑥  
△85億円

⑦  
976億円

# 第3四半期決算のポイント③: 連結当期純利益

◆ 損保ジャパン日本興亜、ひまわり生命、海外グループ会社のすべてが利益貢献

## 連結当期純利益のブレイクダウン



2013年度  
第3四半期  
実績

①  
+404億円

②  
+58億円

③  
+73億円

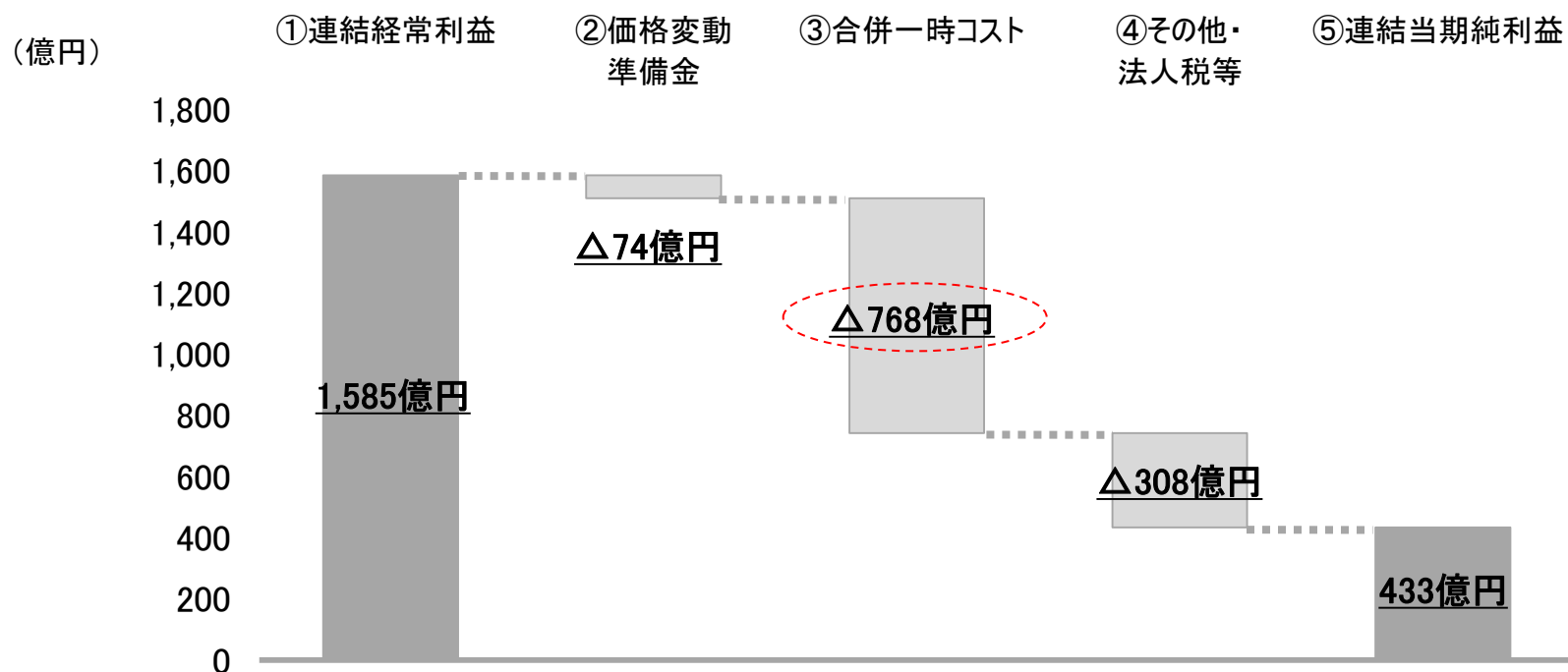
④  
△63億円

⑤  
473億円

## 第3四半期決算のポイント④: 特別損益等

- ◆ 経常利益と当期純利益の差は、システムコストを中心とした合併一時コスト(768億円)が主因
- ◆ 合併一時コストを除けば、当期純利益も前年同期を大幅に上回る水準

### 経常利益と当期純利益の差



2013年度 第3四半期 実績	① 976億円	② △62億円	③ △171億円	④ △267億円	⑤ 473億円
-----------------------	------------	------------	-------------	-------------	------------



## 2014年度通期業績予想概況(連結)

(単位:億円)	2013年度 (実績)	2014年度 (予想)	増減	
正味収入保険料	22,689	25,050	+2,360	(+10.4%)
生命保険料	2,772	2,795	+22	(+0.8%)
経常利益(連結)	1,123	1,720	+596	(+53.0%)
損保ジャパン日本興亜※1	1,177	1,626	+448	(+38.1%)
ひまわり生命	137	178	+40	(+29.3%)
海外グループ会社	109	192	+82	(+75.6%)
その他・連結調整※2	△301	△277	+23	(-)
当期純利益(連結)	441	450	+8	(+1.9%)
損保ジャパン日本興亜※1	495	428	△66	(△13.5%)
ひまわり生命	80	110	+29	(+37.1%)
海外グループ会社	115	146	+30	(+26.2%)
その他・連結調整※2	△250	△235	+14	(-)
(参考)修正利益(事業別)	1,015	1,569	+553	(+54.5%)
国内損保事業	65	609	+543	(+835.9%)
国内生保事業	857	800	△57	(△6.7%)
海外保険事業	78	142	+64	(+81.5%)
金融・サービス事業	15	17	+2	(+16.6%)

※1 2013年度は旧損保ジャパンと旧日本興亜損保の合算値

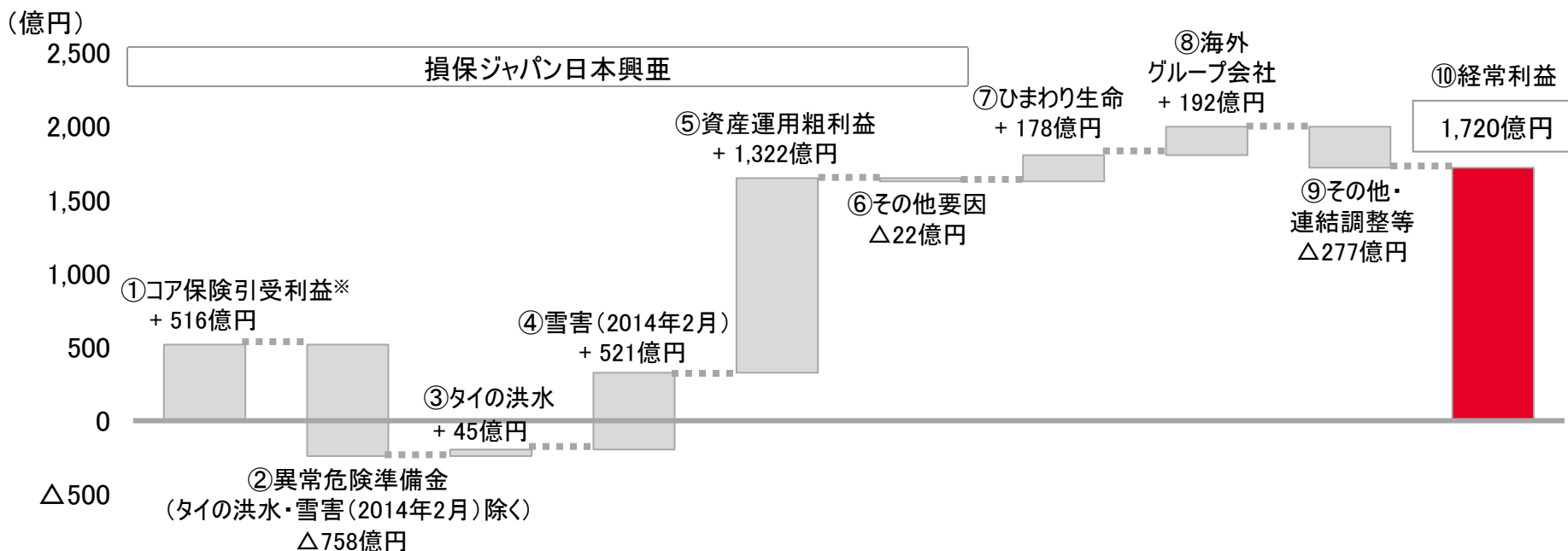
※2 損保ジャパン日本興亜ホールディングス(旧NKJSJホールディングス)の設立にあたり、企業結合の会計処理として「パーチェス法」を適用している。HD連結では、旧日本興亜損保等の資産・負債を経営統合時の時価で取得し、これを簿価としている(旧日本興亜損保等の連結上の認識簿価とHD連結上の認識簿価が相違)。したがって、損保ジャパン日本興亜の売却損益等を修正する必要がある、この修正を上記「連結調整」に含めている(旧損保ジャパンと旧日本興亜損保は合併時に簿価通算している)。

## 2014年度通期業績予想のポイント(連結経常利益)

## ◆ 連結経常利益は1,720億円を見込む

- ・保険引受利益 : 自動車保険の商品・料率改定などを背景に着実に収支改善が進展
- ・資産運用粗利益 : 安定した利配収入、有価証券売却益を中心に1,322億円を見込む
- ・ひまわり生命 : 178億円の利益貢献

## 連結経常利益の主要構成要素



2013年度実績	+ 144億円	△ 336億円	+ 213億円	△ 646億円	+ 1,927億円	△ 123億円	+ 137億円	+ 109億円	△ 301億円	1,123億円
----------	---------	---------	---------	---------	-----------	---------	---------	---------	---------	---------

※ コア保険引受利益は、保険引受利益から異常危険準備金、タイの洪水および雪害(2014年2月)に係る影響を除いたもの

1. 業績動向 P. 2

**2. 国内損保事業 P. 10**

3. 国内生保事業 P. 23

4. 海外保険事業 P. 27

5. ERM・資本政策 P. 31

参考資料 P. 41

## 2014年度第3四半期決算概況(損保ジャパン日本興亜)

- ◆ トップラインは順調に拡大、保険引受利益の大幅改善などにより、経常利益は1,429億円と+556億円の大幅増益
- ◆ 合併一時コスト(768億円)を特損計上し、当期純利益は328億円

(単位: 億円)	2013年度 第3四半期	2014年度 第3四半期	増減
正味収入保険料	15,522	16,339	+816 (+5.3%)
除く自賠責・家計地震	13,299	14,054	+755 (+5.7%)
正味損害率	65.2%	65.8%	+0.6pt
除く自賠責・家計地震	61.9%	63.1%	+1.2pt
正味事業費率	32.2%	31.9%	△0.3pt
除く自賠責・家計地震	34.3%	33.8%	△0.5pt
コンバインド・レシオ	97.4%	97.7%	+0.3pt
除く自賠責・家計地震	96.2%	96.9%	+0.7pt
保険引受利益	△69	321	+391
資産運用粗利益	1,063	1,127	+63
経常利益	872	1,429	+556
当期純利益	404	328	△75
【参考】修正利益			
当期純利益	404	328	△75
+) 異常危険準備金繰入額(税引後)	115	△46	△162
+) 価格変動準備金繰入額(税引後)	39	48	+8
-) 有価証券売却損益・評価損(税引後)	381	314	△66
-) 特殊要因(税引後)*1	△196	△602	△406
修正利益	375	618	+243

\*1 特殊要因は合併一時コスト等

# 正味収入保険料

## ◆ 正味収入保険料はすべての種目で増収

### 種目別正味収入保険料

(単位:億円)	2013年度 第3四半期	2014年度 第3四半期	増減	2014年度 (予想)
火災	1,997	2,360	+363 (+18.2%)	3,231
海上	343	393	+49 (+14.5%)	500
傷害	1,420	1,427	+6 (+0.5%)	1,848
自動車	7,577	7,773	+196 (+2.6%)	10,516
自賠責	2,216	2,278	+61 (+2.8%)	3,082
その他	1,968	2,106	+137 (+7.0%)	2,655
うち賠償責任	1,191	1,250	+58 (+5.0%)	1,539
合計	15,522	16,339	+816 (+5.3%)	21,835
合計(除く自賠責・家計地震)	13,299	14,054	+755 (+5.7%)	18,743

(参考) 自動車保険の台数・単価・保険料  
対前年同期比(2014年12月末)

	損保ジャパン日本興亜		
	台数	単価	保険料
ノンフリート	△0.8%	+2.6%	+1.8%
フリート	+1.7%	+3.3%	+5.0%
合計	△0.3%	+2.6%	+2.3%

※営業成績保険料ベース

(主な増収要因)

火災: 家計分野、企業分野とも堅調に推移するとともに、受再保険料が増収

自動車: 商品・料率改定効果による影響が主因

その他: 賠償責任保険など引き受けが好調

※2014年8月以前は旧損保ジャパンと旧日本興亜損保の合算値

# 正味損害率(リトン・ペイド)

◆ 雪害(2014年2月)のペイド化を主因に正味損害率(リトン・ペイド)は上昇

## 種目別正味損害率

(単位: 億円)	正味支払保険金		正味損害率			増減
		増減		増減		
火災	1,783	+571	77.4%	+14.3pt		
海上	203	△16	54.4%	△12.2pt		
傷害	765	+2	58.3%	△0.4pt		
自動車	4,279	△25	62.9%	△2.1pt		
自賠責	1,722	△7	82.4%	△2.8pt		
その他	1,042	+132	52.9%	+2.7pt	(参考)E/I損害率	
うち賠償責任	594	+59	51.1%	+2.1pt		
合計	9,796	+657	65.8%※	+0.6pt	自動車	62.0% △4.7pt
合計(除く自賠責・家計地震)	8,074	+664	63.1%	+1.2pt	合計(除く自賠責・家計地震)	63.7% △0.8pt
合計(除く自賠責・家計地震・国内自然災害)	7,048	+120	55.8%	△2.5pt		

※このうち雪害影響は4.2pt程度

補足① タイの洪水 : 2014年度3Qの正味支払保険金実績は14億円(なお、2013年度3Q実績(旧損保ジャパン+旧日本興亜損保合算)は108億円)

補足② 金融保証保険 : 2014年度3Qの正味支払保険金実績は0.5億円(なお、2013年度3Q実績(旧損保ジャパン)は1億円)

# 正味事業費率

◆ 継続的な社費削減および正味収入保険料の増収により、正味事業費率は低下

## 正味事業費

(単位:億円)	金額		正味事業費率	
		増減		増減
諸手数料及び集金費	2,940	+239	18.0%	+0.6pt
営業費及び一般管理費*	2,278	△23	13.9%	△0.9pt
合計	5,218	+215	31.9%	△0.3pt
合計(除く自賠償・家計地震)	4,745	+189	33.8%	△0.5pt

## 社費

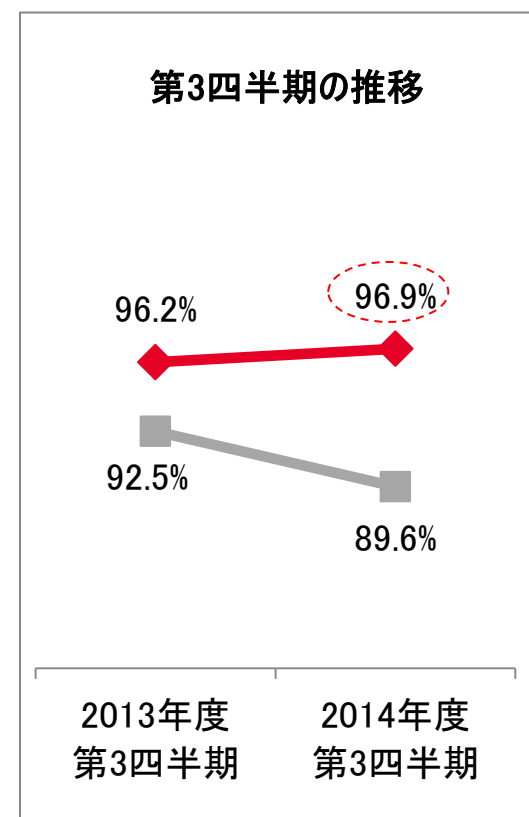
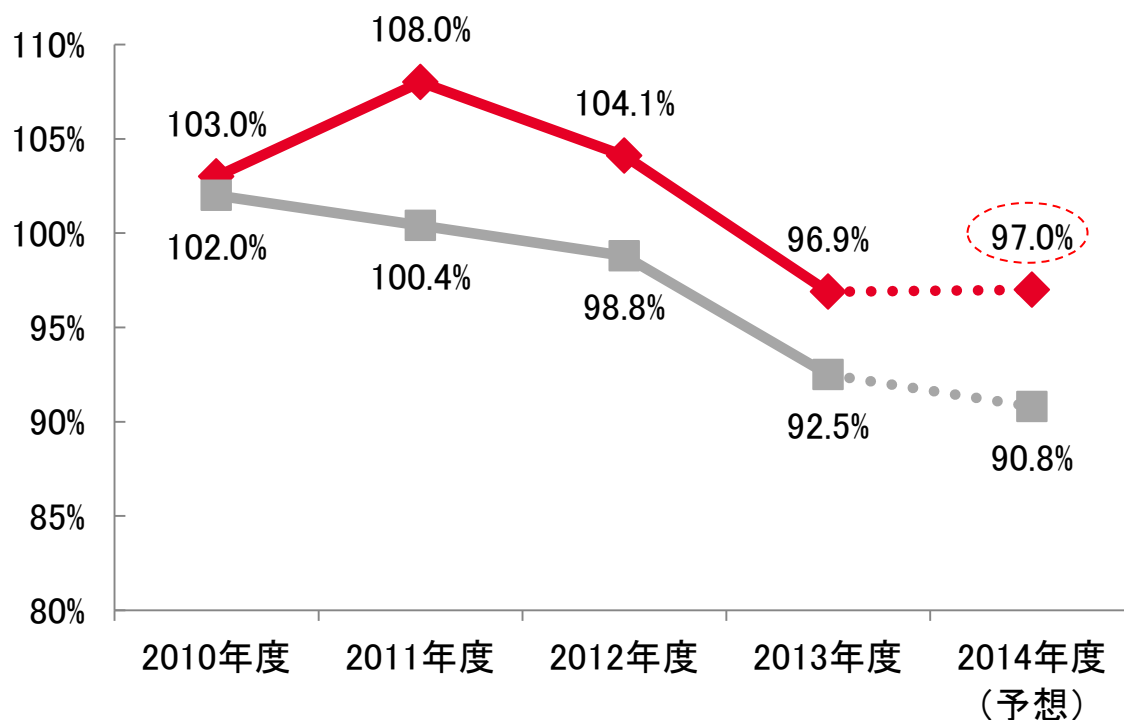
(単位:億円)	金額		対正味収保	
		増減		増減
人件費	1,817	△56	11.1%	△1.0pt
物件費	1,333	△15	8.2%	△0.5pt
税金等	160	+7	1.0%	△0.0pt
合計	3,311	△65	20.3%	△1.5pt

\* 保険引受に係るもの

## コンバインド・レシオ

- ◆ 雪害(2014年2月)の影響などにより、2014年度第3四半期のコンバインド・レシオは96.9%へ微増
- ◆ 国内自然災害を除いたベースでは改善

## コンバインド・レシオ(除く自賠責・家計地震)の推移



◆ コンバインド・レシオ(除く自賠責・家計地震)

■ 参考:コンバインド・レシオ(除く自賠責・家計地震・国内自然災害)

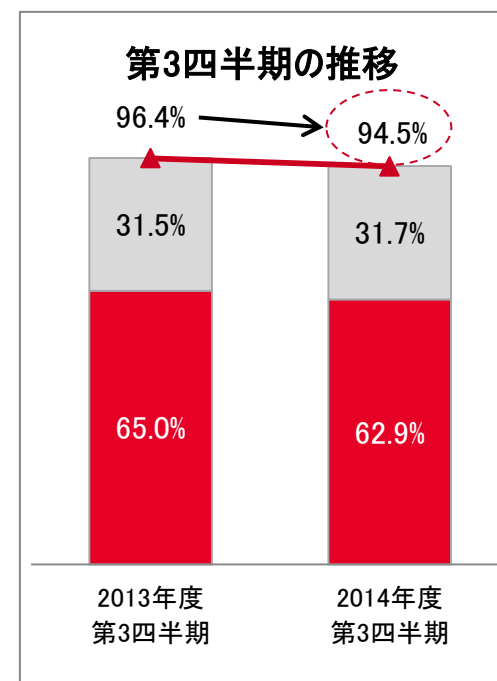
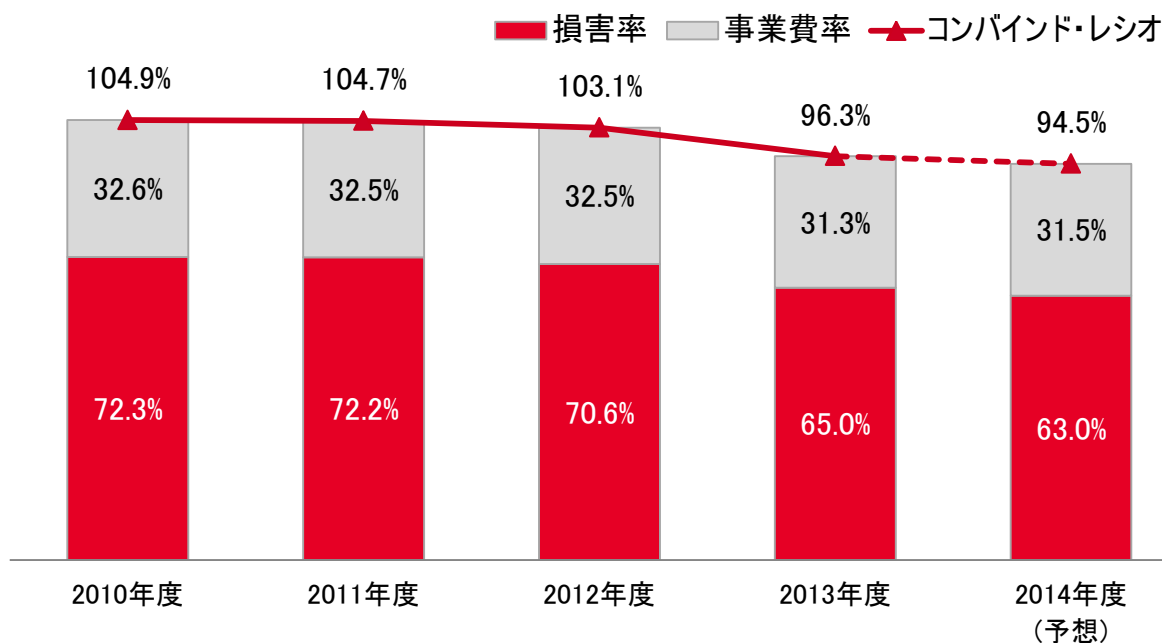
※ 2014年8月以前は旧損保ジャパンと旧日本興亜損保の合算値



## 自動車保険－収支の状況

- ◆ 2014年度第3四半期もコンバインド・レシオは低下  
 ー 商品・料率改定効果が発現、事故受付件数の減少傾向が継続

## 自動車保険のコンバインド・レシオの推移



(参考) 自動車保険(ノンフリート)の料率改定と等級制度改定

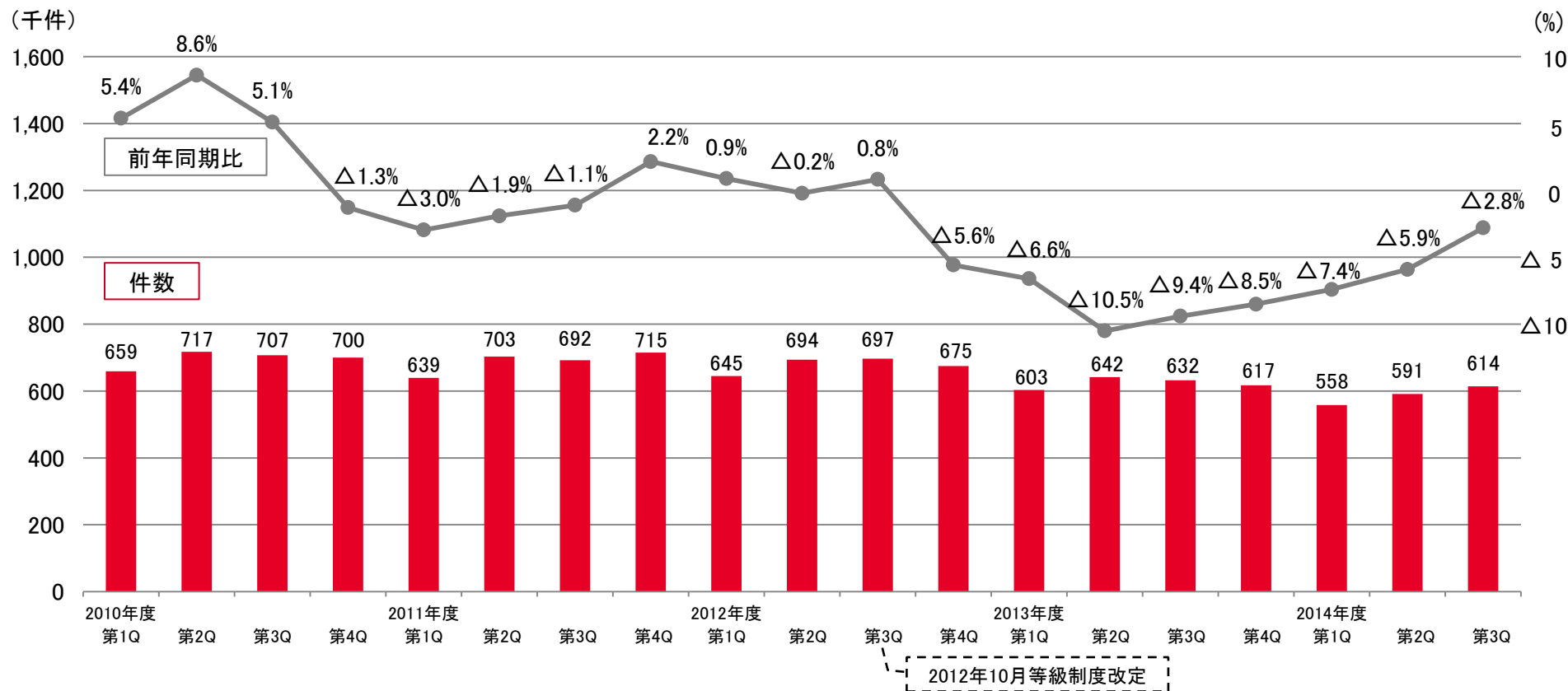
	2010年度	2011年度	2012年度	2013年度	2014年度
旧損保ジャパン	4月 +0.8%	4月 +1.7%	10月 等級制度改定	4月 +2.1%	7月 +2.5%
旧日本興亜損保	12月 +1.4%	1月 +1.8%	10月 等級制度改定	4月 +2.0%	9月 +2.5%

※ 2014年8月以前は旧損保ジャパンと旧日本興亜損保の合算値

※ 損害率はW/Pベース(含む損調費)

# (参考) 自動車保険—事故受付件数

## 事故受付件数の推移



※ 事故受付件数対前年同期比は暦影響を調整

※ 各期の特殊要因(東日本大震災、2011年度発生 of 台風12号、台風15号、2012年度発生 of 爆弾低気圧および雪害(2014年2月))を除いている

# 資産運用損益

- ◆ ネット利配収入、有価証券売却損益とも通期計画対比順調
- ◆ 資産運用粗利益は1,127億円と進捗率85%

(単位:億円)

	2013年度 第3四半期	2014年度 第3四半期	増減	(参考) 2014年度予想
利息及び配当金収入	882	883	+0	1,063
ネット利息及び配当金収入 ①	516	542	+25	611
有価証券売却損益 ②	679	462	△217	586
うち国内株式売却損益	541	314	△226	508
有価証券評価損 ③	△108	△7	+101	△6
うち国内株式評価損	△101	△0	+101	△6
金融派生商品損益 ④	△128	△22	+106	△8
その他損益 ⑤	104	152	+47	139
資産運用粗利益 (①~⑤計)	1,063	1,127	+63	1,322

## 国内損保事業の業績予想

(単位: 億円)	2013年度 実績	2014年度 予想	対前年 増減
正味収入保険料	20,821	21,835	+1,013 ( +4.9% )
(除く自賠責・家計地震)	17,830	18,743	+912 ( +5.1% )
正味損害率	65.7%	66.2%	+0.6pt
(除く自賠責・家計地震)	62.7%	63.8%	+1.1pt
EI損害率(除く自賠責・家計地震)	68.1%	64.5%	△3.5pt
正味事業費率	32.2%	31.3%	△0.9pt
(除く自賠責・家計地震)	34.2%	33.2%	△1.1pt
コンバインド・レシオ	97.9%	97.5%	△0.3pt
(除く自賠責・家計地震)	96.9%	97.0%	+0.1pt
保険引受利益	△625	326	+952 ( - )
資産運用粗利益	1,927	1,322	△604 ( △31.4% )
経常利益	1,177	1,626	+448 ( + 38.1% )
当期純利益	495	428	△66 ( △13.5% )

※ 2013年度は旧損保ジャパンと旧日本興亜損保の合算値

## 国内損保事業の業績予想の前提

国内自然災害(当年度発生)	350億円
タイの洪水	正味支払保険金:46億円
雪害(2014年2月)	正味支払保険金:725億円
異常危険準備金	13億円の取り崩し(ネット)
異常危険準備金繰入率	火災グループの繰入率:10% 自動車グループの繰入率:5.5%
資産運用の前提	<株価> 日経平均株価:16,173円 <金利> 10年物国債利回り:0.53% <為替> ドル円:109.45円、ユーロ円:138.87円
利息及び配当金収入	グロス:1,063億円 ネット:611億円
有価証券キャピタル損益	有価証券売却損益:586億円 有価証券評価損:6億円
価格変動準備金	89億円の繰入れ(ネット)

## (参考)国内自然災害

◆ 今年度は大規模な自然災害はなく、国内自然災害に係る正味支払保険金は前年同期から減少

## 正味支払保険金

(単位:億円)	2013年度 第3四半期	2014年度 第3四半期	増減
火災	214	184	△29
海上	0	-	△0
傷害	0	0	△0
自動車	38	29	△9
その他	11	8	△3
合計	264	222	△42

(参考)2014年度の主な自然災害の正味支払保険金の状況  
(単位:億円)

台風11号(2014年8月)	54
台風18号(2014年10月)	45
台風19号(2014年10月)	31

通期業績予想の前提  
発生損害額 350億円

※ 上記数値は、当年度発生した国内自然災害に係る正味支払保険金であり、過年度発生分を含まない  
 ※ 四半期決算では支払備金を簡便法で算出しているため、国内自然災害に係る発生損害額を集計していない

## (参考) 雪害(2014年2月)

◆ 2014年度第3四半期は異常危険準備金取崩益により384億円のプラス影響

## 雪害(2014年2月)の影響

(単位:億円)

	2013年度 までの累計	2014年4月－12月		2014年 12月末累計	
	種目合計	種目合計	火災	自動車	種目合計
正味支払保険金	208	689	621	48	898
支払備金積増	521	△485	△433	△36	36
正味発生損害額	730	203	188	11	934
異常危険準備金取崩	84	588	540	48	672
保険引受利益への影響	△646	384	351	36	△262

※ 2014年2月8日～19日発生分

※ 2014年8月以前は旧損保ジャパンと旧日本興亜損保の合算値

1. 業績動向 P. 2

2. 国内損保事業 P. 10

**3. 国内生保事業 P. 23**

4. 海外保険事業 P. 27

5. ERM・資本政策 P. 31

参考資料 P. 41



## ANPと保有AP

- ◆ 保有拡大に伴う保険料収入の増加を維持、特に保障性商品で拡大
- ◆ 医療保険新商品投入により、新契約年換算保険料の増加を見込む

(単位: 億円)

	2013年度 第3四半期	2014年度 第3四半期	増減	2013年度	2014年度予想
新契約高	19,452	17,654	△1,797 (△9.2%)	26,350	26,000
新契約年換算保険料	222	257	+34 (+15.6%)	304	436
保険料等収入	2,727	2,778	+ 50 (+1.9%)	3,728	3,812
(除く一時払保険料)	2,698	2,754	+ 56 (+2.1%)	3,690	3,778
経常利益	124	220	+ 96 (+77.8%)	172	212
当期純利益	58	119	+ 60 (+103.0%)	80	110

(単位: 億円)

	2013年度末	2014年度 第3四半期末	増減	(単位: 億円)								
保有契約高	202,455	208,109	+ 5,653 (+2.8%)	<table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="2">増減</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>保障性</td> <td>+ 57</td> </tr> <tr> <td>貯蓄性</td> <td>+ 8</td> </tr> <tr> <td>合計</td> <td>+ 66</td> </tr> </tbody> </table>	増減		保障性	+ 57	貯蓄性	+ 8	合計	+ 66
増減												
保障性	+ 57											
貯蓄性	+ 8											
合計	+ 66											
保有契約年換算保険料	3,085	3,151	+ 66 (+2.1%)									

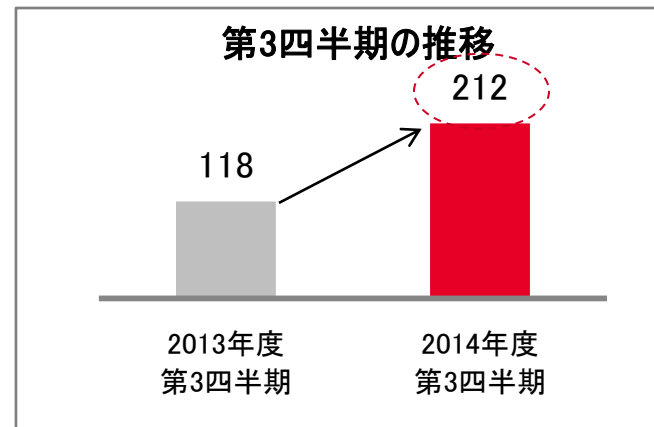
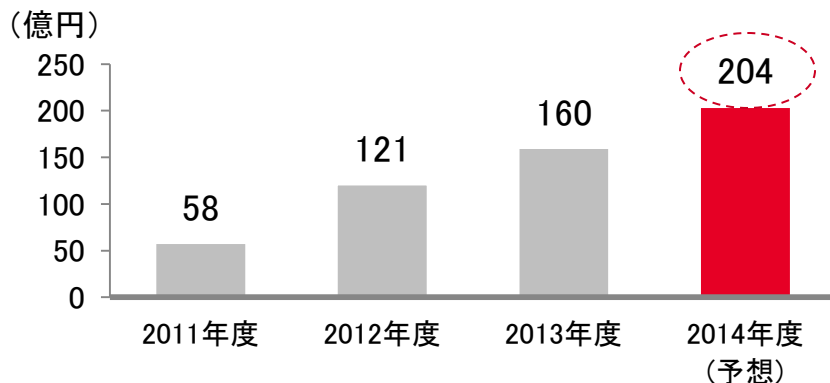
内訳 →

※契約高および年換算保険料は、個人保険と個人年金保険の合計

# 会計利益

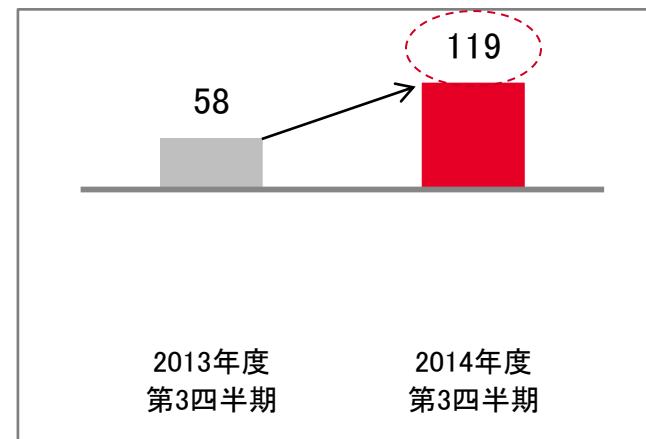
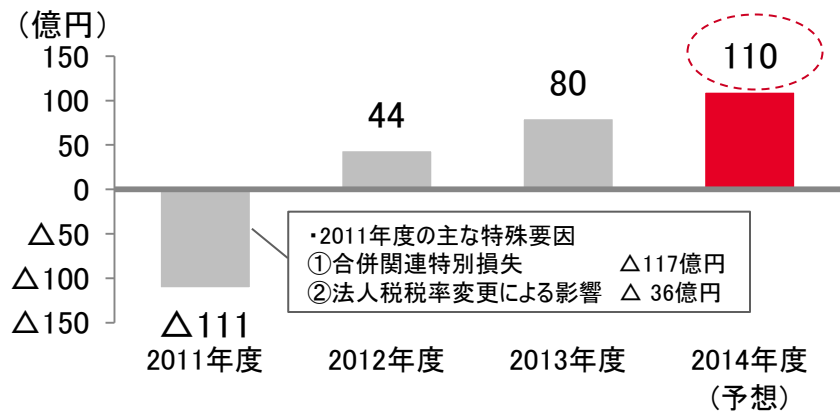
◆ 保有拡大に伴い、会計利益は順調に増加

## 基礎利益※



※経常利益から有価証券の売却損益などのキャピタル損益と危険準備金繰入などの臨時損益を控除したもので、一般事業会社の営業利益や銀行の業務純益に近いもの

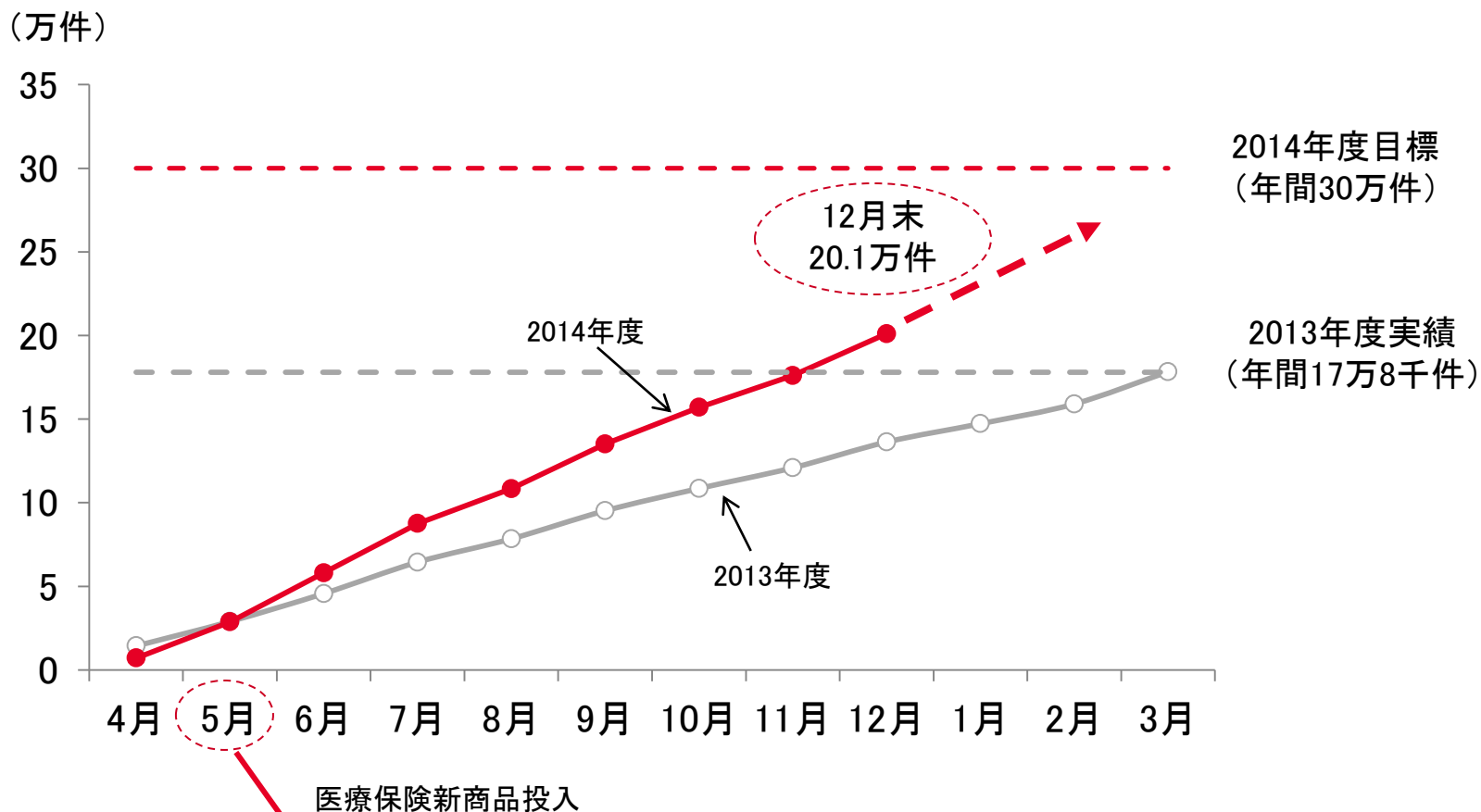
## 当期純利益



# (参考) 医療保険の販売状況

◆ 新商品効果により販売好調

## 医療保険の販売実績



1. 業績動向 P. 2

2. 国内損保事業 P. 10

3. 国内生保事業 P. 23

**4. 海外保険事業 P. 27**

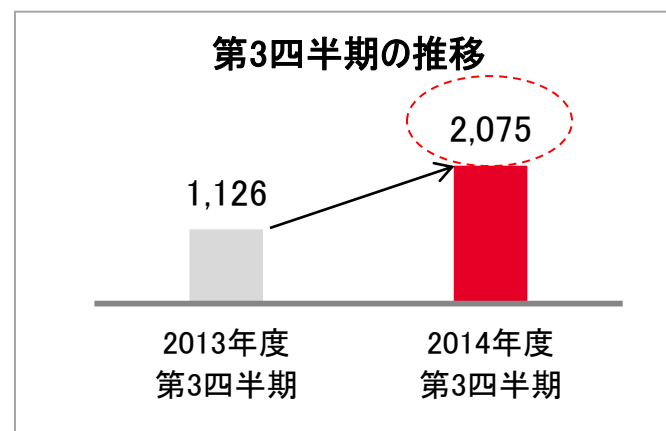
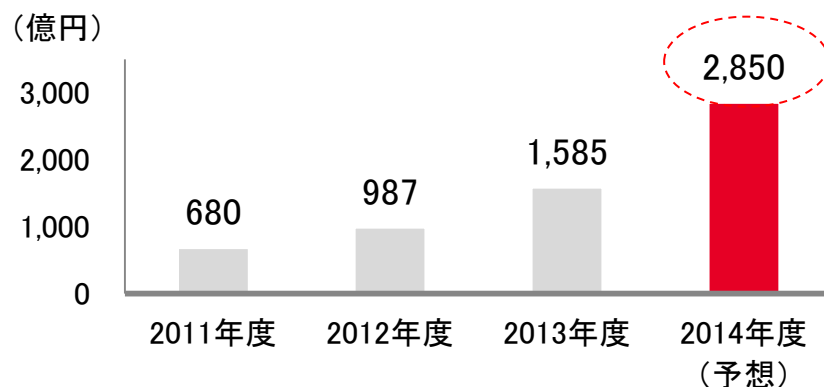
5. ERM・資本政策 P. 31

参考資料 P. 41

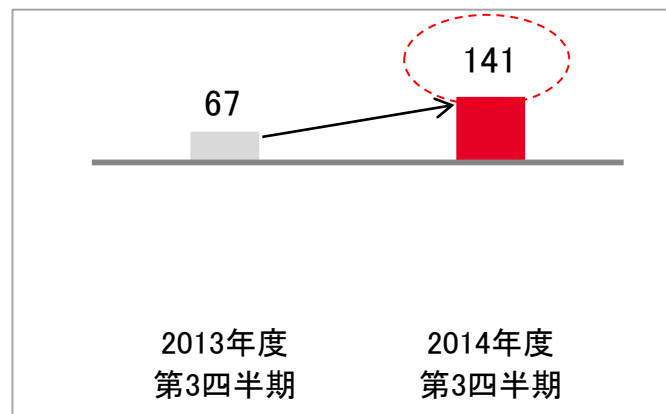
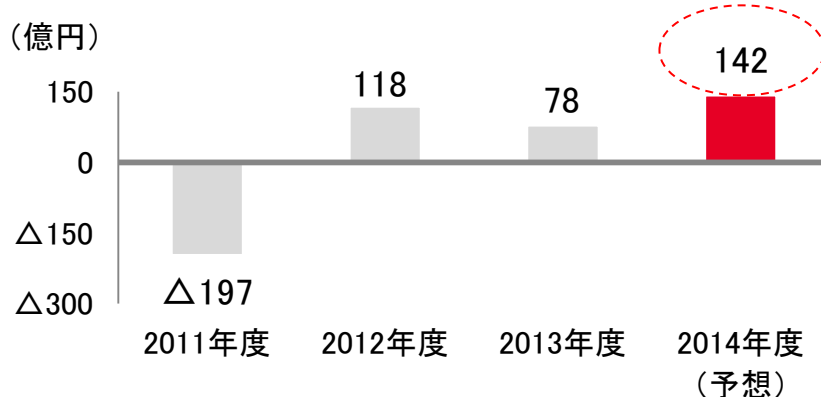
## 業績概況(収入保険料、当期純利益)

◆ トップラインは倍増、ボトムラインは3Q段階で通期計画値をほぼ達成

## 収入保険料



## 当期純利益



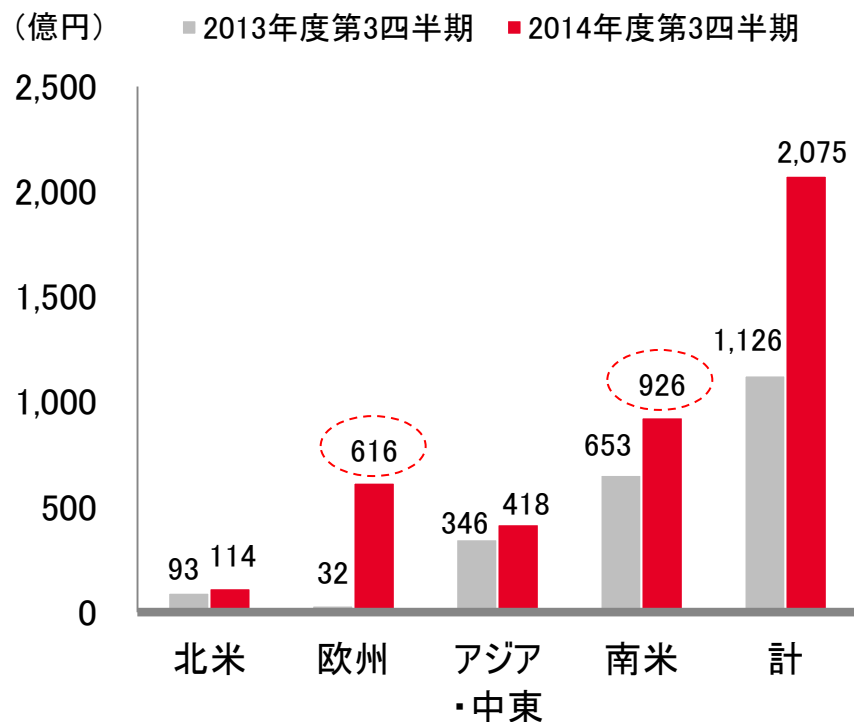
※収入保険料は、連結子会社、持分法適用会社ともに、持分割合を反映した数値を記載しており、連結財務諸表とは基準が異なる

※当期純利益は、持分割合の反映などの調整を行った数値であり、連結財務諸表とは基準が異なる

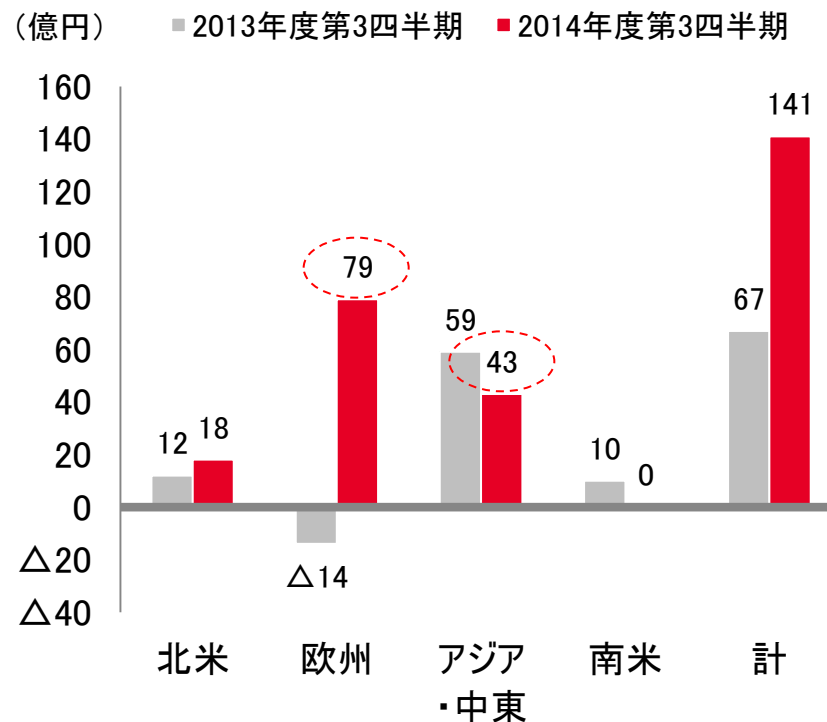
# 地域別業績概況

◆ 収入保険料は欧州と南米を中心に拡大、当期純利益は欧州とアジア・中東が貢献

## 収入保険料(地域別)



## 当期純利益(地域別)



※収入保険料は、連結子会社、持分法適用会社ともに、持分割合を反映した数値を記載しており、連結財務諸表とは基準が異なる  
 ※当期純利益は、持分割合の反映などの調整を行った数値であり、連結財務諸表とは基準が異なる

# グループ会社別業績

## 各グループ会社の業績

(億円)

		収入保険料			当期純利益			第3四半期のポイント
		2014年度 第3四半期	増減	2014年度 (予想)	2014年度 第3四半期	増減	2014年度 (予想)	
北米	SJアメリカ	114	+20	172	18	+6	12	計画どおり推移
欧州	SJNKヨーロッパ+NKヨーロッパ	36	+3	51	2	+17	3	損害率が良好に推移
	キャンピアス(英国)	580	+580	834	76	+76	79	順調に利益貢献
アジア・ 中東	SJシゴルタ(トルコ)	154	+21	205	19	+2	15	主力の自動車保険が好調
	テネットソンポ(シンガポール)	68	+25	87	4	△29	3	損害率・事業費率とも良好。前期はタイ洪水の支払備金影響(+31億円)あり
	ベルジャヤ(マレーシア)	86	+17	108	11	+2	12	保険引受利益・運用益ともに順調
	SJNK中国+NK中国	62	+0	77	3	+8	0	経費削減などが奏功
	SJNK香港+NKアジア	29	+2	40	4	△0	3	計画どおり推移
	その他	17	+3	24	0	+1	△0	大部分はUSGI(インド)
南米	安田マリチマ(ブラジル)	926	+272	1,247	0	△10	11	損害率の悪化により減益したものの、既に対策を実施中
合計		2,075	+948	2,850	141	+74	142	-

※収入保険料は、連結子会社、持分法適用会社ともに、持分割合を反映した数値を記載しており、連結財務諸表とは基準が異なる

※当期純利益は、持分割合の反映などの調整を行った数値であり、連結財務諸表とは基準が異なる。(なお、キャンピアス社の第3四半期実績のうち、買収完了時(2014年5月)に確定していた利益は連結で修正する)

1. 業績動向 P. 2

2. 国内損保事業 P. 10

3. 国内生保事業 P. 23

4. 海外保険事業 P. 27

**5. ERM・資本政策 P. 31**

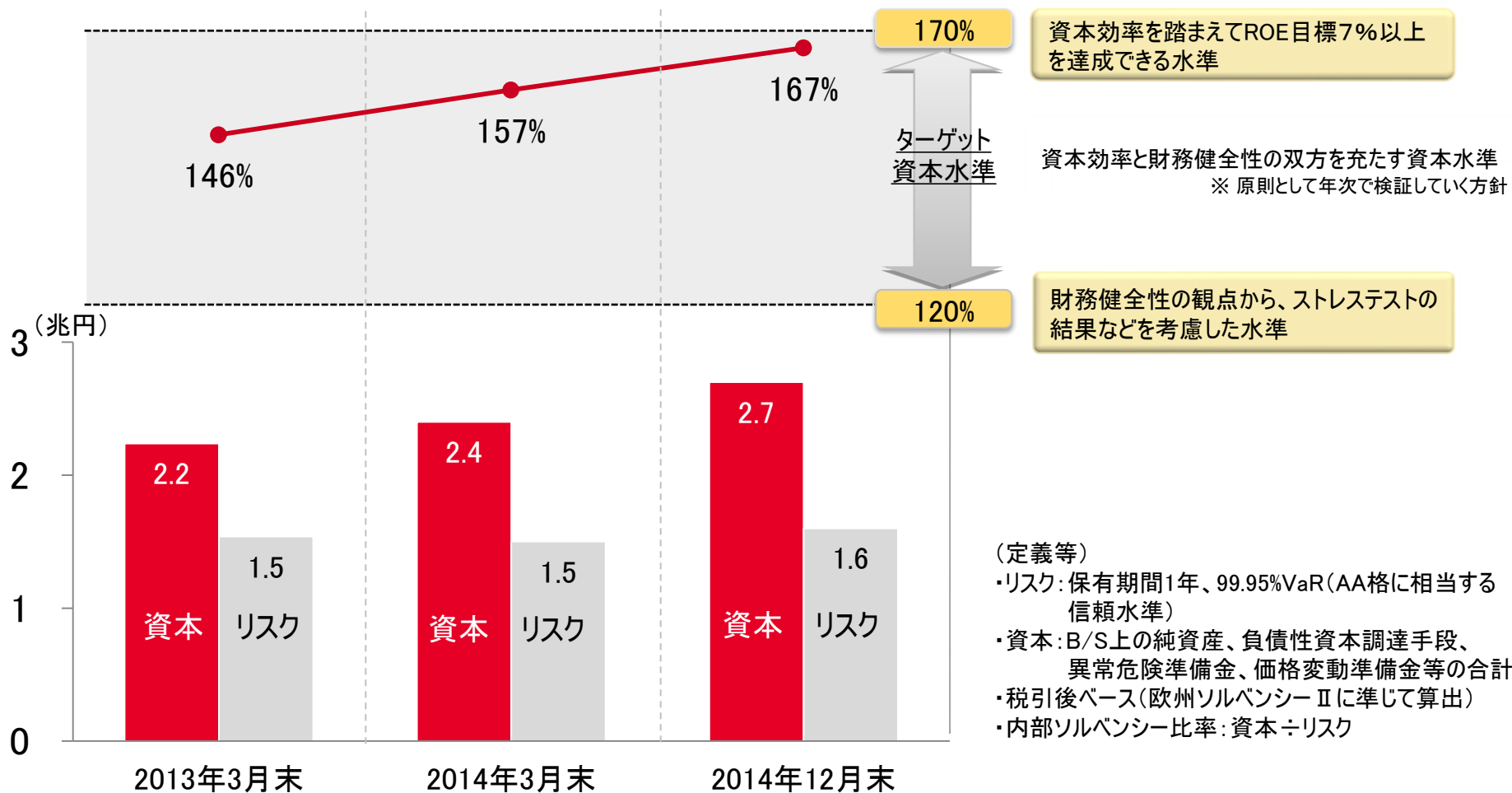
参考資料 P. 41



# 財務の健全性(内部ソルベンシー比率)

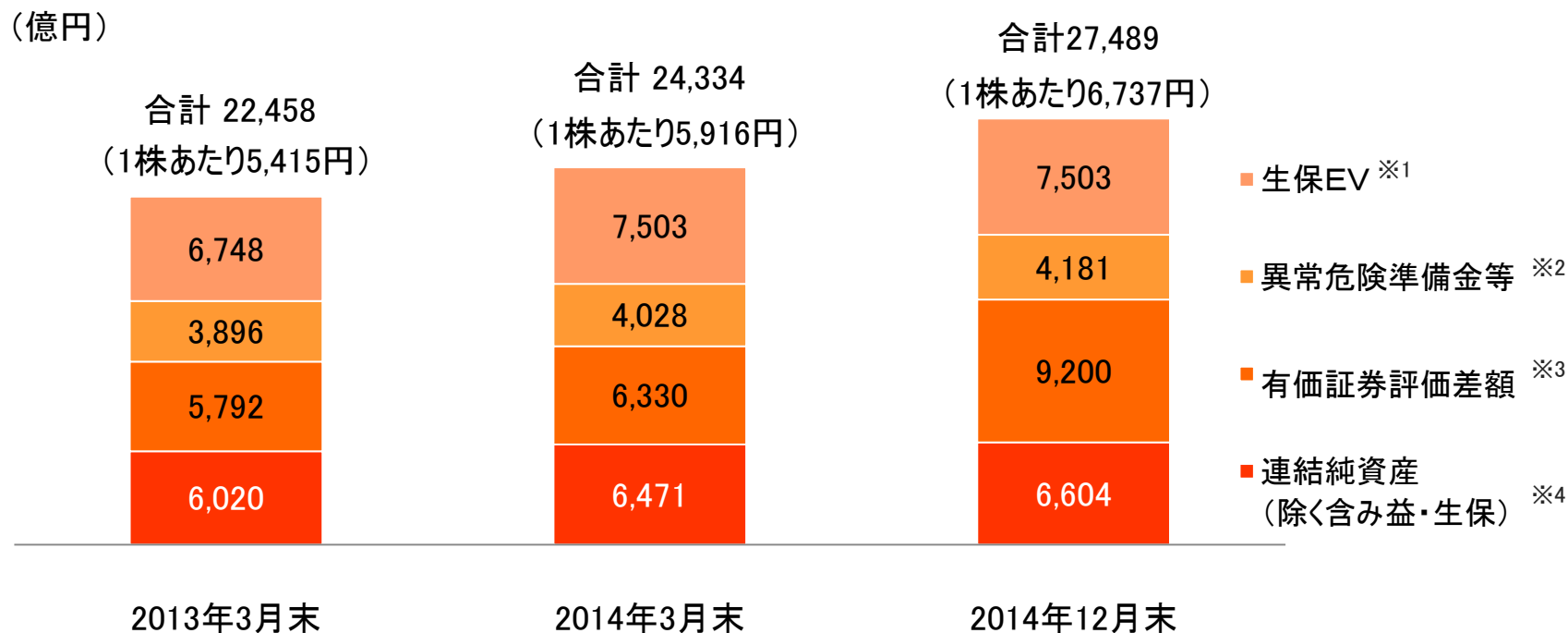
◆ 内部ソルベンシー比率はターゲット資本水準(120%~170%)の範囲内

## 内部ソルベンシー比率の推移



# (参考)修正連結純資産

## 修正連結純資産の推移



※1 生保EVは金利変動による影響額等を控除前の名目値。一方、経営計画の対象としている修正利益では、生保EV増加額は金利変動等による影響額を控除後の数値。EVの算出は年1回のため、2014年12月末も同年3月末と同じ数値を記載

※2 異常危険準備金等は異常危険準備金(税引後)と価格変動準備金(税引後)の合計

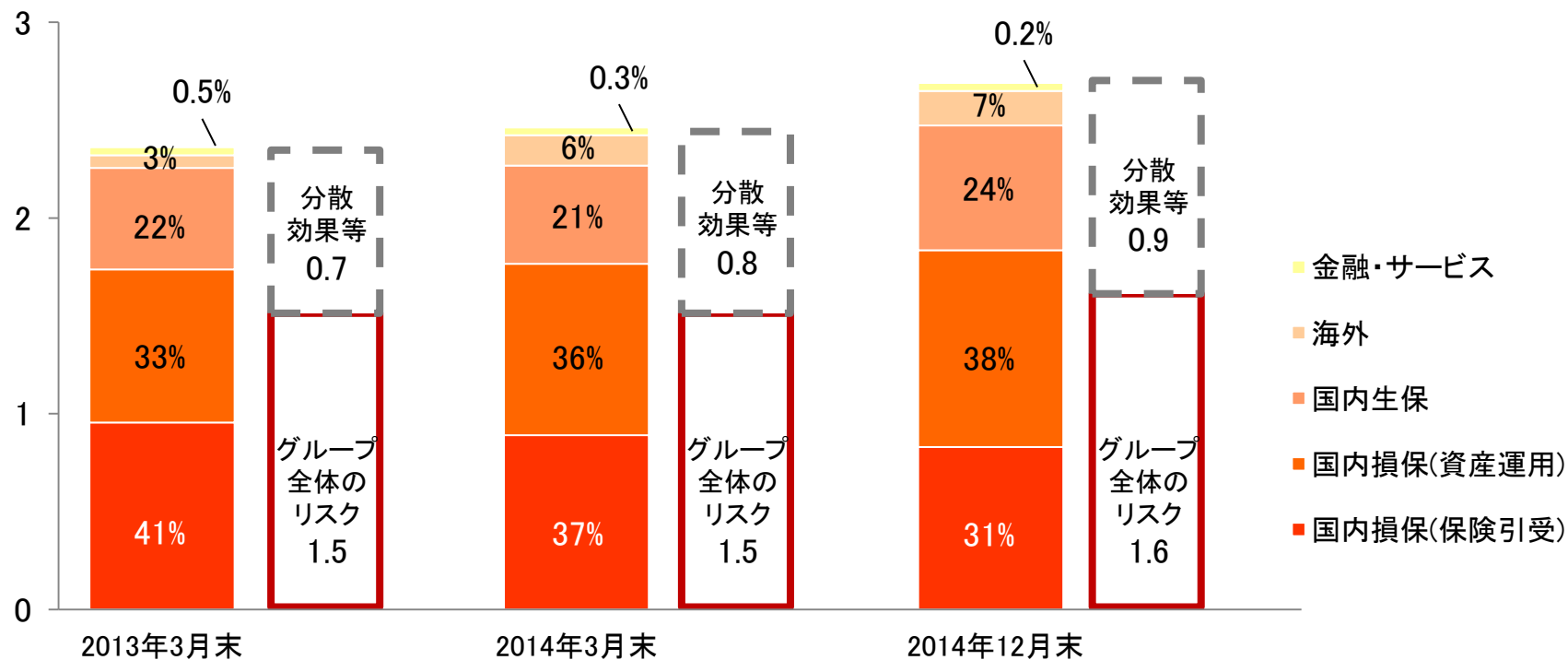
※3 有価証券評価差額は税引後

※4 連結純資産は「ひまわり生命の純資産」と「有価証券評価差額」を除く

# (参考)リスク量のブレイクダウン

## 事業毎のリスク量推移

(兆円)



(定義等) 各事業のリスク量:  
事業間リスク分散効果控除前、税引前ベースの99.95%VaR  
グループ全体のリスク:  
各事業のリスク量合計から、事業間のリスク分散効果や税影響を控除

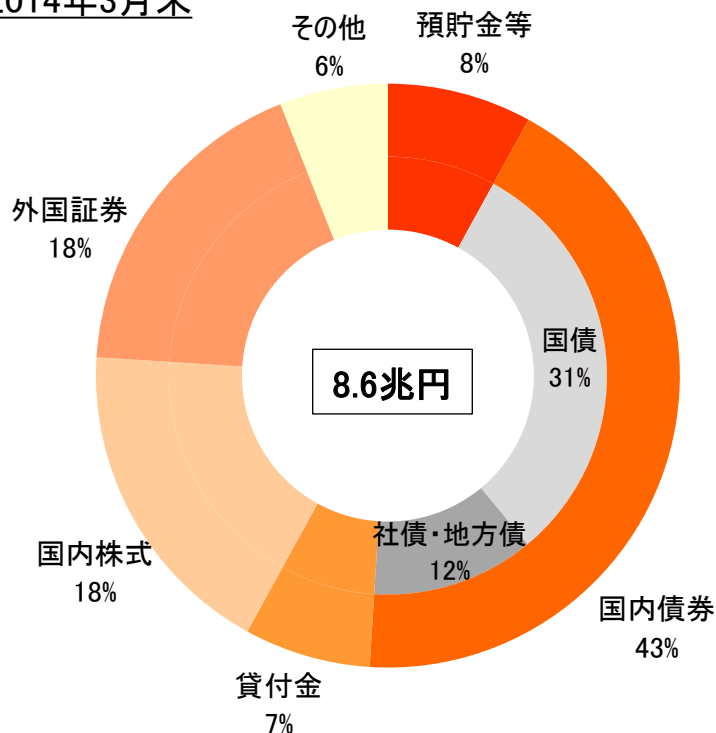


# 資産ポートフォリオ(グループベース)

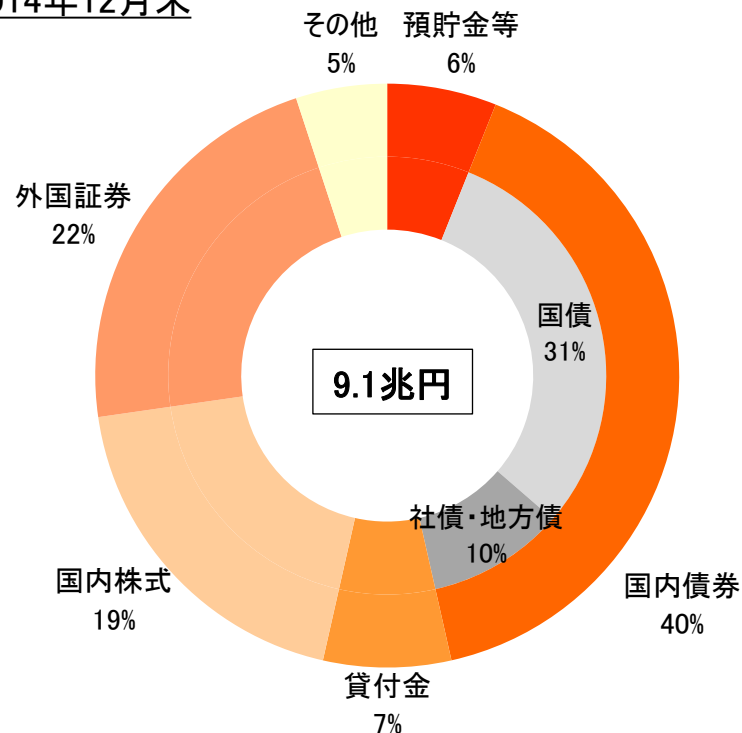
- ◆ 負債特性、流動性に留意したALMにより、安定的な利益確保を目指す
- ◆ 政策株式削減計画に従い、国内株式の削減を継続

## 資産運用額(グループ連結ベース)

2014年3月末



2014年12月末



※ “その他”は土地・建物、非連結子会社株式など

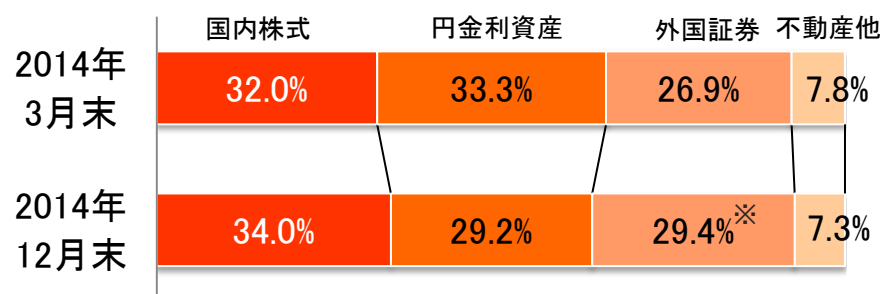
# 資産ポートフォリオ(損保ジャパン日本興亜単体)

◆ 一般勘定は分散投資、積立勘定はALMを基本とするポートフォリオマネジメントを継続

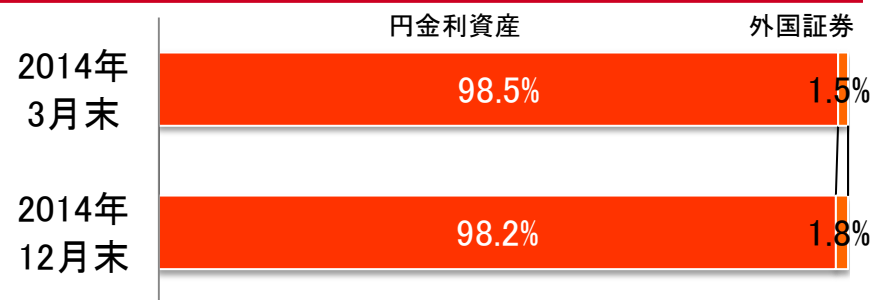
## 資産運用額(損保ジャパン日本興亜単体)



## 一般勘定の資産内訳



## 積立勘定の資産内訳



※ 外国証券(外貨建)内訳(2014年12月末)

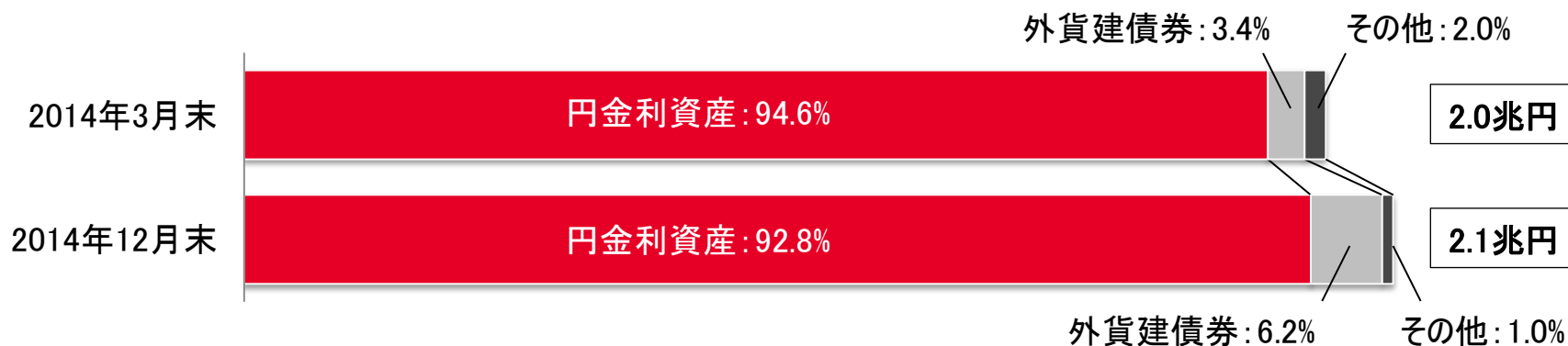
	米ドル	ユーロ	その他	合計
債券	26%	16%	11%	52%
ファンド等	23%	0%	1%	25%
子会社・関連会社株	4%	0%	19%	23%
合計	53%	16%	31%	100%

	2014年3月末	2014年12月末
デュレーション		
資産	4.8年	4.4年
負債	6.1年	6.3年

# 資産ポートフォリオ(ひまわり生命単体)

◆ 円金利資産中心に保守的にポートフォリオを管理

## 資産運用額(ひまわり生命単体)



## 資産・負債のデュレーション

	2014年3月末	2014年12月末
資産	12.9年	13.4年
負債	16.4年	18.5年

(注)デュレーションギャップを適切に把握するため、資産と負債の残高の違いに基づく調整を行っている

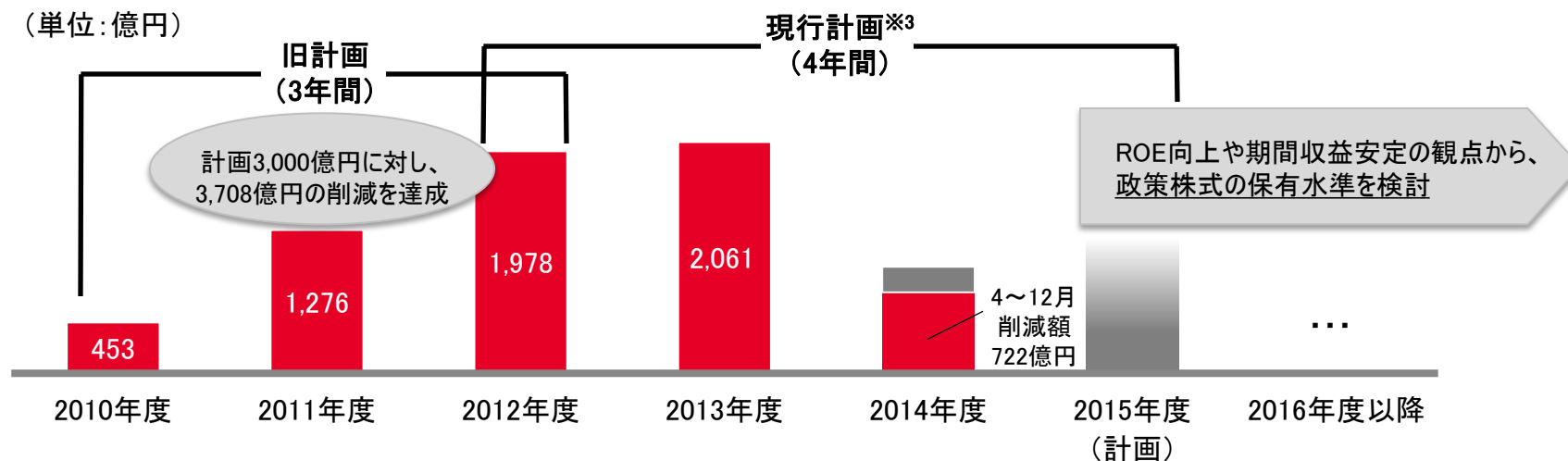
# 政策株式の削減

◆ 12月末の削減実績は722億円（先物ヘッジを含む）と計画どおり

## 2014年度4-12月削減額※1

	現物	先物※2	合計	
損保ジャパン日本興亜	457億円	264億円	722億円	※1 ネットの削減額（売却時価－購入時価）を示している 表示した金額とは別に、優先株の償却により株式エクスポージャー を300億円削減済み  ※2 日経平均先物の売建て

## 政策株式の削減計画

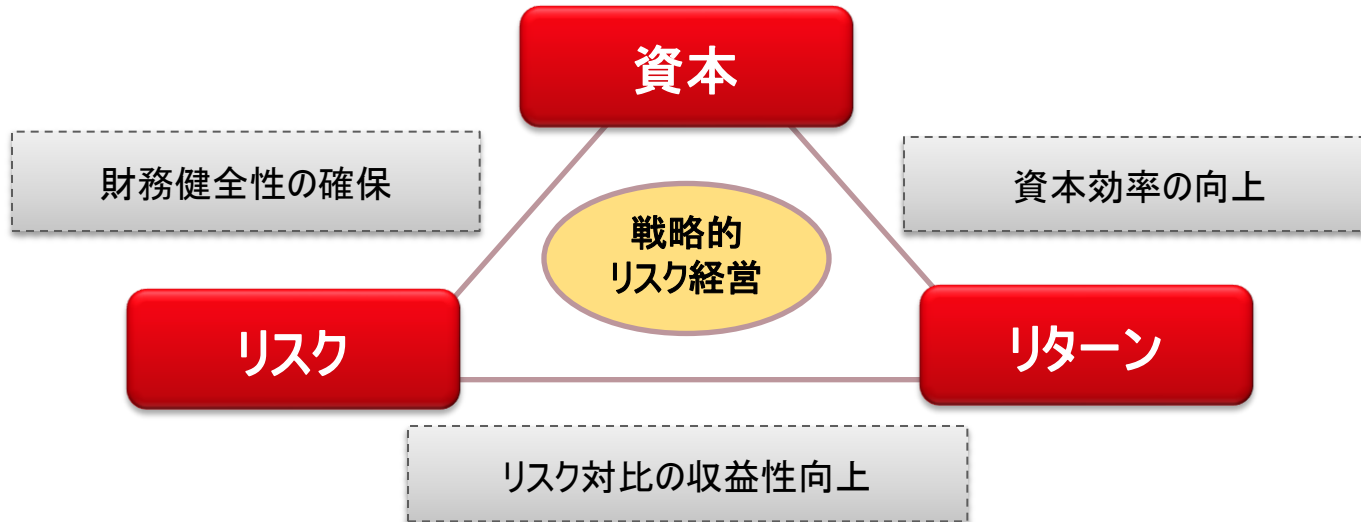


※3 現行計画の日経平均前提は10,500円



## (参考) 戦略的リスク経営(ERM)

- ◆ 経営戦略とリスク管理の枠組みを融合した戦略的リスク経営(ERM)を展開している
- ◆ リスク選好原則を踏まえて、資本・リスク・リターンのバランスを適切にコントロールし、企業価値の最大化を目指す



### リスク選好原則

- ① 資本・リスク・リターンのバランスを適切にコントロールし、資本効率の向上を通じて、企業価値の最大化を図り、世界で伍していくグループを目指す
- ② 保険引受・資産運用に加えて、金融・サービス事業等でリスクテイクし、収益の拡大を目指す
- ③ グローバルな保険会社に対する競争力を保持するための財務健全性(AA格相当)を維持する
- ④ グループの持続的成長を確固たるものとするため、安定的なリターンの獲得と2015年度グループ修正連結ROE7%以上の達成を目指す

1. 業績動向 P. 2

2. 国内損保事業 P. 10

3. 国内生保事業 P. 23

4. 海外保険事業 P. 27

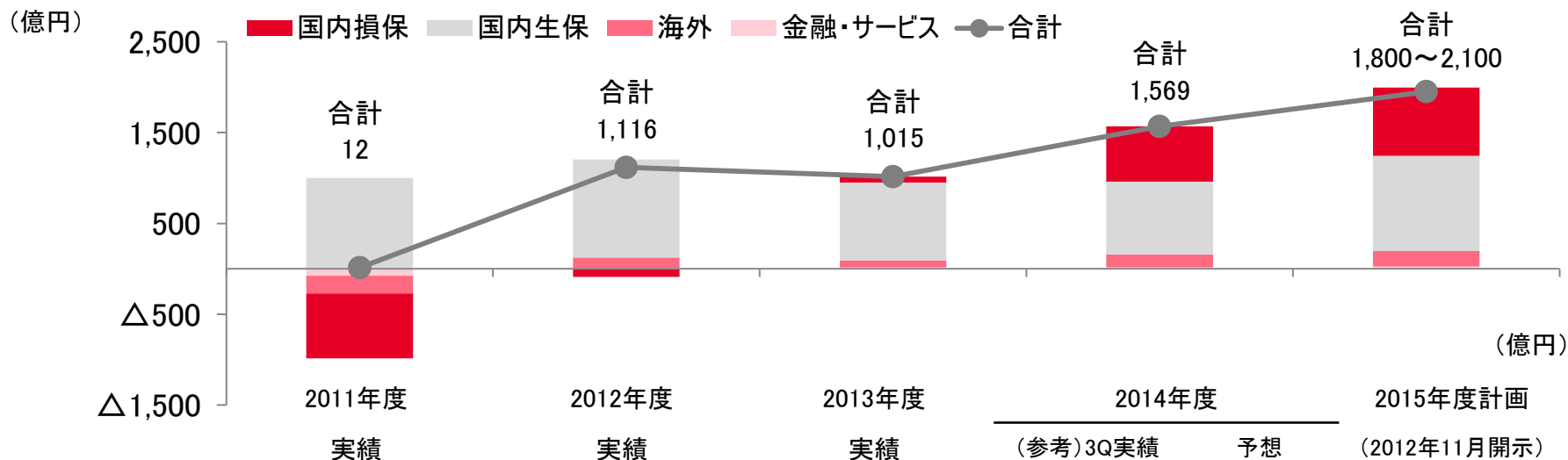
5. ERM・資本政策 P. 31

**参考資料 P. 41**

# 経営計画進捗状況

◆ 自動車保険中心に収支改善が継続するなど、2015年度の目標達成確度は高まる

## 経営計画の進捗



	2011年度 実績	2012年度 実績	2013年度 実績	2014年度 (参考)3Q実績	2014年度 予想	2015年度計画 (2012年11月開示)
国内損保	△713	△89	65	563	609	700 ~ 800
国内生保	1,000	1,078	857	—	800	1,000 ~ 1,100
海外	△197	118	78	141	142	140 ~ 200
金融・サービス	△76	7	15	13	17	20 ~ 30
合計(修正連結利益)	12	1,116	1,015	—	1,569	1,800 ~ 2,100
修正連結ROE	0.1%	5.4%	4.3%	—	6.2%	7%以上

※ 修正利益の算出においては、国内損保会社の合併に係る特別損失などを特殊要因として除いている  
金額(税控除後)は、2012年度176億円、2013年度267億円、2014年度約610億円、2015年度約34億円

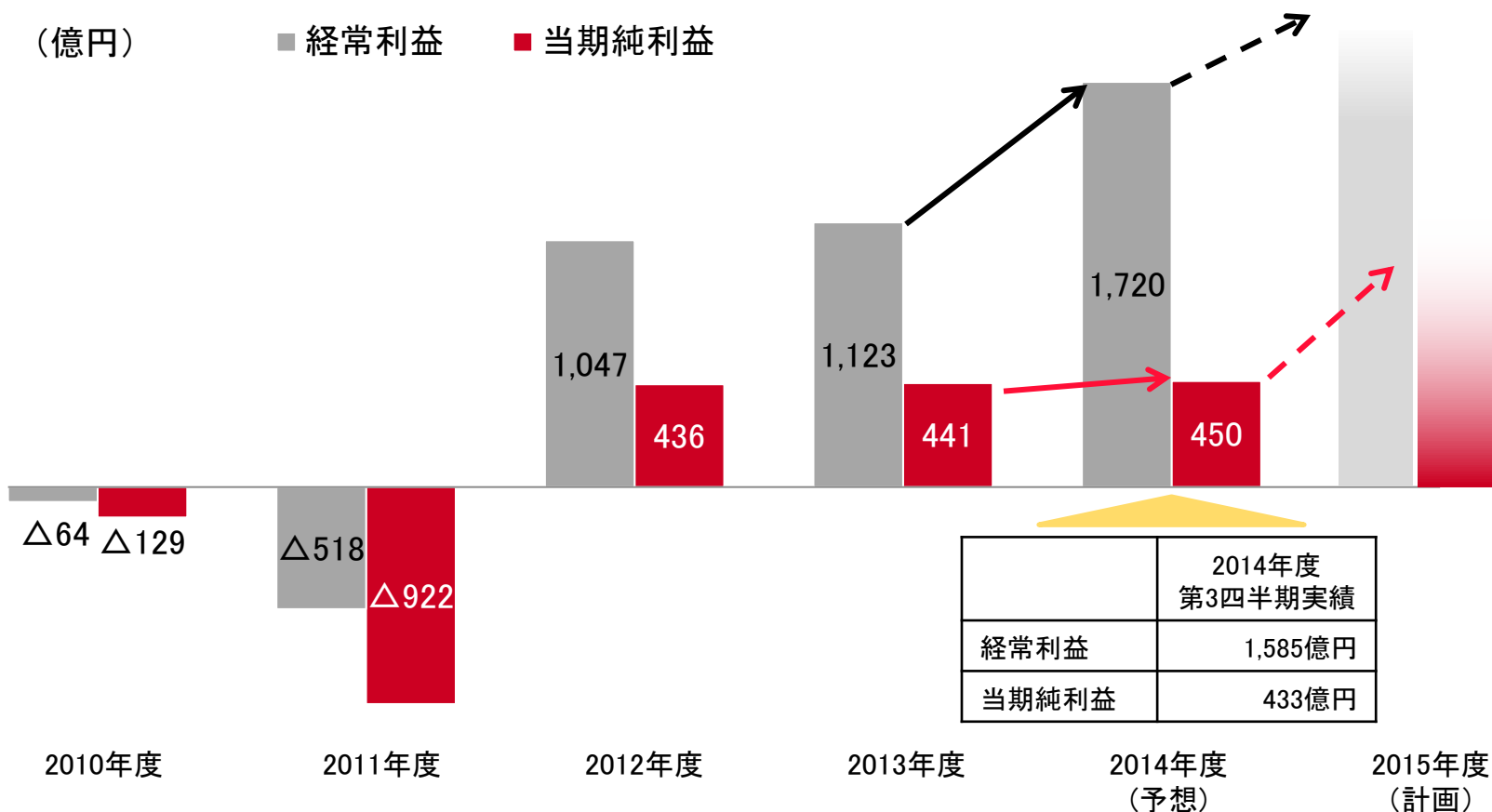
※ 2011年度はセゾン自動車火災とそんぽ24を金融・サービスとして集計している

※ 各事業の定義および修正利益・修正ROEの定義は44ページ参照

# 連結業績の動向（日本会計基準）

- ◆ 経常利益：国内損保の収支改善などにより増益基調は継続
- ◆ 当期純利益：2014年度は合併一時コストの影響を受けるが、2015年度は大幅増益の見込み

## 経常利益・当期純利益の推移



# 修正利益等の定義

## 修正利益算出上の事業の定義

## 修正利益の算出方法

国内損害保険事業	損保ジャパン日本興亜、そんぽ24、セゾン自動車火災の単体の合算	当期純利益 + 異常危険準備金繰入額(税引後) + 価格変動準備金繰入額(税引後) - 有価証券の売却損益・評価損(税引後) - 特殊要因
国内生命保険事業	ひまわり生命	当期エンベディッド・バリュー(EV)増加額 - 増資等資本取引 - 金利等変動影響額
海外保険事業	海外保険子会社	当期純利益
金融・サービス事業	金融サービス事業、ヘルスケア事業など	当期純利益

## 修正連結ROEの算出方法

$$\text{修正連結利益} \div [\text{連結純資産(除く生保子会社純資産)} + \text{異常危険準備金(税引後)} + \text{価格変動準備金(税引後)} + \text{生保子会社EV}]$$

※分母は、期首・期末の平均残高

## 将来予想に関する記述について

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報および合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。

### 【お問い合わせ先】

損保ジャパン日本興亜ホールディングス株式会社  
経営企画部 IRチーム

電話番号 : 03-3349-3913

Fax : 03-3349-6545

E-Mail : [ir@sompo-hd.com](mailto:ir@sompo-hd.com)

Web : <http://www.sompo-hd.com/>